

第2回 道の駅アリストぬまくま あり方懇談会
次第

日時：令和6年8月20日(水)

14:00～16:00

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. 開会挨拶 | 14:00～14:05 |
| 2. 第2回懇談会の目的と位置づけ | 14:05～14:15 |
| 3. 第1回懇談会の振り返り | 14:15～14:30 |
| 4. 地域ブランディング事例の紹介 | 14:30～14:45 |
| 5. 参加者による意見交換 | 14:45～15:55 |
| 6. 閉会挨拶 | 15:55～16:00 |

Confidential

令和6年度
第2回 道の駅アリストぬまくま あり方懇談会
検討資料

株式会社船井総合研究所

2024年8月20日

本日のトピック



1. 開会挨拶
2. 第2回懇談会の目的と位置づけ
3. 第1回懇談会の振り返り
4. 地域ブランディング事例の紹介
5. 参加者による意見交換
6. 閉会挨拶

1.開会挨拶



福山市経済環境局経済部
農林水産振興担当部長 卜部光央 様

2.第2回懇談会の目的と位置づけ

懇談会の概要

名称	道の駅アリストぬまくま あり方懇談会
目的	道の駅アリストぬまくま（以下「道の駅」という。）を、本市の活性化に資する拠点とするため、再整備の実施に向け、道の駅の今後の方向性について専門的な見地から意見を聴取することを目的とした、道の駅アリストぬまくまあり方懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) 道の駅の今後のあり方に関する事項 (2) その他道の駅の再整備に関して必要な事項
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 1 懇談会は、委員 15 人以内で組織する。 2 委員は、次に掲げる者で構成する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 関係団体に所属する者 (2) 金融機関に所属する者 (3) 行政機関の者 (4) 学識経験を有する者 (5) その他市長が必要と認めたる者 3 市長は、前項に掲げる者のほか必要に応じオブザーバーを置くことができる。
実施期間 (今年度)	令和6年7月～令和7年3月 計5回開催

道の駅アリストぬまくまあり方懇談会 委員名簿

関係団体	福山市農業協同組合	代表理事専務	藤田 正之
	千年漁業協同組合	代表理事組合長	占部 勝巳
	沼隈内海商工会	会長	藤原 勝彦
	福山市経済環境局経済部	農林水産振興担当部長	卜部 光央
金融機関	株式会社広島銀行	東部統括本部長	田中 博志
	株式会社中国銀行	備後広島地区本部長	伊藤 泰三
行政機関	国土交通省 中国地方整備局	福山河川国道事務所副所長 (道路担当)	小田 嘉幸
	広島県	東部建設事務所管理課長	池上 由美子
学識経験	福井工業大学	工学部教授	下川 勇
	福山市立大学	都市経営学部准教授	辻 紳一
その他	福山商工会議所	専務理事	小林 仁志
	福山観光コンベンション協会	専務理事	上田 英夫
	広島県東部観光推進協議会	会長	加川 倫崇

2024.7.1現在

【オブザーバー】

所属等	名前
企画財政局 企画政策部 地域活性化担当部長	神原 明子
経済環境局 文化観光振興部長	岩本 信一郎
市民局 まちづくり推進部 南部地域担当部長	鈴木 裕

【事務局】

所属等	名前
経済環境局 経済部 農林水産課長	林 茂晃
経済環境局 経済部 農林水産課企画担当次長	徳永 嘉則
経済環境局 経済部 農林水産課	西田 昇

2.第2回懇談会の目的と位置づけ

令和6年度懇談会の流れ

<p>方向性</p>	<p>1.懇談会委員間で道の駅再整備の目的・ゴールイメージを共有する。 2.再整備の方向性・コンセプト・機能について検討を進める。</p>
<p>内容・スケジュール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第1回委員会 (2024年7月10日) <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会の趣旨確認 ・道の駅事業に対する考え方の共有 ・基礎調査結果報告 ・道の駅に対する所感・課題感の共有 ■ 第2回委員会 (2024年8月20日) <ul style="list-style-type: none"> ・第1回懇談会の振り返り ・地域ブランディング事例の紹介 ・道の駅に対するイメージ・想い・ビジョンの共有 ■ 第3回委員会 (2024年10月予定) <ul style="list-style-type: none"> ・コンセプト案の検討 ・再整備の方向性検討 ■ 第4回委員会 (2024年12月予定) <ul style="list-style-type: none"> ・再整備の方向性検討 ・機能の検討 ■ 第5回委員会 (2025年2月予定) <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度検討事項の振り返り ・令和7年度検討事項の協議・検討

2.第2回懇談会の目的と位置づけ

第2回懇談会の目的と位置づけ

<p>目的</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 懇談会委員間で道の駅再整備の目的・ゴールについて一致をさせる 2. 第1回懇談会の検討を深めつつ、皆様が持つ道の駅へのイメージ・想い・ビジョンの共有を行い、コンセプト検討につなげる。
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第1回懇談会の振り返り 第1回懇談会の検討内容について、道の駅そのものの在り方のような「総論的」内容と各機能における商品の在り方のような「各論的」内容に分けて振り返りを行う。 ■ 地域ブランディング事例の紹介 地域に資する道の駅の在り方の検討を深めるため、道の駅により地域ブランディングに成功した、「道の駅川場田園プラザ」の事例を取り上げて、考察を行う。 ■ 協議 第2回懇談会の目的を達成するため、下記3項目を中心に検討を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・皆様が持つ道の駅へのイメージ ・皆様が持つ道の駅への想い ・皆様が持つ道の駅へのビジョン(再整備を経てどのような道の駅を創っていきたいか)



3.第1回懇談会の振り返り

- 7月10日（水）に開催された第1回懇談会では、懇談会委員各位から様々な視点から多くのご意見をいただいた。
- いただいたご意見は、「ターゲット」「方向性」「機能」「空間活用」の4つの視点に分類され、今回の第2回懇談会における道の駅アリストぬまくまのありたい姿をありありと描く発想の起点としていく。



3. 第1回懇談会の振り返り

第1回懇談会 ご意見(総論的内容)

■ ターゲットに関連するご意見

- ・足元商圈をターゲットとし運営を行ってきたが、収益性の観点から足元商圈だけでの運営は難しくなってきたと感じる。
- ・観光客については、個人旅行者をターゲットにするのはもちろんのこと、ある程度観光バスの流入も目途に入れておく必要があると考える。特にインバウンドがバス移動で旅行するケースが増えている。
- ・観光の面においては、団体より個人客が主流になっているので、道の駅として狙うターゲットは個人客の方が可能性あるのではないかと。

■ 方向性に関するご意見

- ・観光導線に関して、みろくの里、道の駅、鞆の浦の3点をうまく巡るような誘導ができれば良い。
- ・観光の面では、「アクティビティ」の要素を取り入れていくことが良いと感じている。
- ・アクティビティというキーワードについて、地元の方に聞くと何も無いと言われることが多いが、外部視点から見ると、魅力が発見しやすい。「モノ」を買うだけでなく、「体験」による付加価値をつけるのは良い視点である。他の施設、地域にはない体験を創出し地域全体が連携することが出来れば地域にとって効果的である。
- ・「鞆未来トンネル」の完成によって、経済波及効果がどの程度になるのかは注視する必要がある。
- ・他の道の駅の良い点を真似る一方で、ここにしかない何かを作ることが重要だと感じた。
- ・地域から支えられているベースを守りながら、付加価値をつけていくことが重要だと考える。
- ・地域の皆さんが道の駅を何とかしたいという危機感が醸成されていることが何より良い傾向だと感じている。

3. 第1回懇談会の振り返り

第1回懇談会 ご意見(各論的内容)

■ 各機能に関する事柄

○全体

- ・そこでしか売っていないような「名物品」の開発が必要である。
- ・情報発信について、SNS等での情報発信頻度が低いため、より高頻度で情報発信及びイベントの開催が必要だと考える。

○物販機能

- ・「鮮魚」については需要に対して、量が少ないのが課題である。
- ・販売単価が低いことが弱みとして挙げられ、肉類・鮮魚類の販売は販売単価向上につながると考えられる。
- ・福山市のHPの道の駅の紹介では「海苔」と「ぶどう」がおすすめされているが、道の駅ではそこまで押し出しているように感じられないのが課題である。
- ・「福山市唯一の道の駅」という状況を活かして、福山産品を集積する等の方向性で再整備するのも一案である。

○飲食機能

- ・メニュー数はちょうど良く、味も美味しいのが強みであると思う。

3. 第1回懇談会の振り返り

第1回懇談会 ご意見(各論的内容)

■ 空間活用に関する事柄

- ・利用者としては駐車場が1番の課題であると感じている。駐車場にある植栽を多少整理するだけでも変化するのではないか。
- ・駐車場台数の不足は課題だと感じている。
- ・駐車場には観光バスが発着できる場所が合った方が良くはないか。観光バスの需要についても調査する必要があると考える。
- ・図書館ギャラリーなど以前は人の集積できていた場所が、あまり活用されていない。

■ その他

- ・店頭販売を実施するなどの工夫も必要だと感じている。



3.第1回懇談会の振り返り

第1回懇談会 ご意見(まとめ)

■ 総論

- ・大前提、地元可愛、地域に資する道の駅とするため、「足元需要」に応える必要はある。
- ・一方で、足元需要の獲得だけでは限界がみられるため、「観光需要」の取り込みも必要である。
- ・観光需要については、個人観光客はもちろんのこと、観光バスで訪れる団体客についても考慮すべきである。
- ・観光需要を取り込んでいくためには、「鞆未来トンネル」の開通も考慮しつつ、鞆の浦等の地域内の各施設が連携していく必要がある。
- ・各施設が連携する際は「体験」等の提供による付加価値の付与も良いと考えられる。

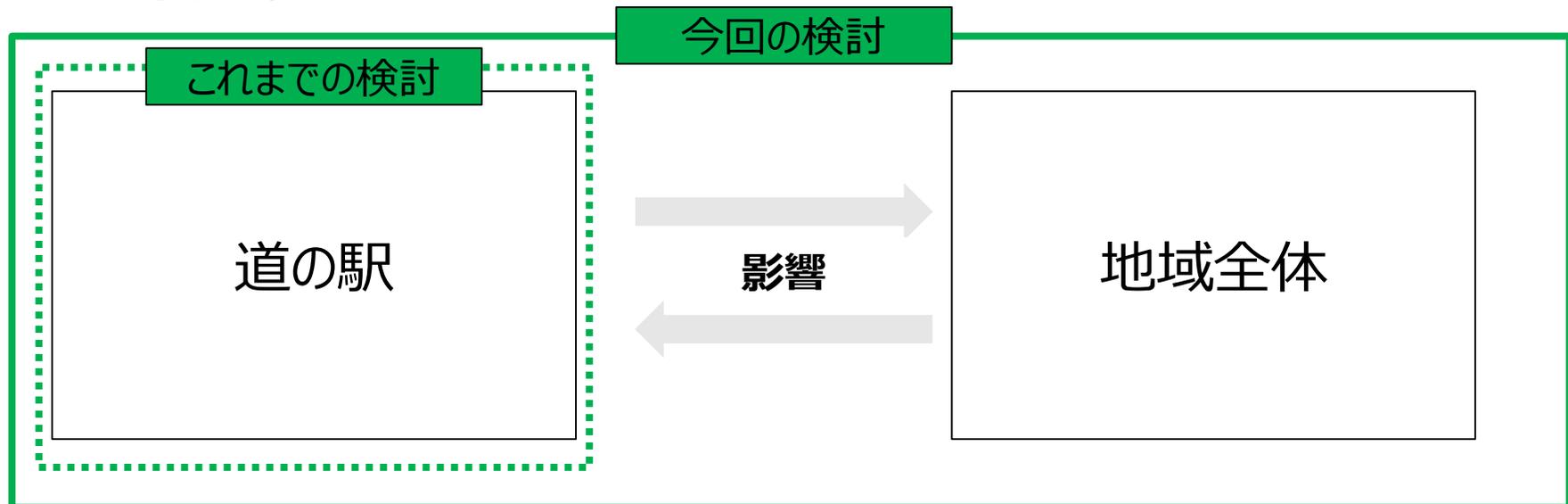
■ 各論

- ・「鮮魚」「ぶどう」等の現状「強み」となっている商品の強化をしていくと良いと考えられる。
- ・一方で、新たな「名物品」の開拓も進めていくと良いと考えられる。
- ・情報発信やイベント開催について強化していく必要がある。
- ・駐車場台数の不足については逼急の課題として何かしらの形で対応が必要である。
- ・駐車場の整備の際は、観光バス等への対応も考慮すべきである。

4.地域ブランディング事例の紹介

本講座の目的 **道の駅は地域活性の「コア」と成り得るか！？**

第1回懇談会の検討は道の駅の「経営面」に関して中心に行った。道の駅の経営の検討は重要であるが、一方で近視眼的に経営の検討ばかりするのではなく、「**地域全体の活性化**」の視野を持って俯瞰的に検討を進めていくことも必要である。そこで今回は、道の駅を「コア」に地域活性化を達成した川場村(道の駅川場田園プラザ)の事例を取り上げ、本道の駅が少しでも地域活性化に貢献するためにどうしたら良いか考察を行う。



4.地域ブランディング事例の紹介



■ 首都圏から約100分。川場村は車も電車もアクセス抜群。



川場村(かわばむら)

- 人口：3,259人(R6.7月末)
- 面積：85.25Km²
- 特徴：
 - 第1産業が主力であり、ブランド米「雪ほたか」・ブルーベリーの生産が有名
 - 1981年に東京都世田谷区と「区民健康村相互協力に関する協定」を締結し、保養所・研修施設等を通じて相互交流を図っている
 - 平成の大合併時は世田谷区との合併検討も行われた

4.地域ブランディング事例の紹介

施設名	道の駅川場田園プラザ
所在地	〒378-0111 群馬県利根郡川場村大字萩室385
アクセス	関越自動車道「沼田IC」約10分
開業年	1997年
運営者	株式会社 田園プラザ川場
機能	<ul style="list-style-type: none">・物販機能<ul style="list-style-type: none">・ファーマーズマーケット、ベーカリー、ビール専門店、ヨーグルト専門店、チーズ専門店等・飲食機能<ul style="list-style-type: none">・そば専門店、ラーメン専門店、生パスタ専門店等・体験機能<ul style="list-style-type: none">・プレイゾーン、ブルーベリー公園、体験陶芸教室等



4.地域ブランディング事例の紹介

年間来場者数：約240万人（2022年度）



売上：約21億円（2022年度）

① 全国道の駅グランプリ2023

順位	駅名	所在地	満足率
1	道の駅川場田園プラザ	群馬県	88.5%
2	あら-伊達な道の駅	宮城県	84.6
3	道の駅富士川楽座	静岡県	78.0
4	道の駅しちのへ	青森県	77.7
5	道の駅米沢	山形県	77.1
6	道の駅むなかた	福岡県	76.3
7	道の駅とみうら枇杷倶楽部	千葉県	76.2
8	道の駅上品の郷	宮城県	75.8
9	道の駅伊東マリンタウン	静岡県	75.6
10	道の駅保田小学校	千葉県	75.5

※利用者の満足度ランキング。じゃらん調べ、北海道、沖縄を除く

「じゃらん」全国道の駅グランプリ2022・2023 1位等
表彰歴・受賞歴多数

出典：

- <https://diamond-rm.net/store/480497/>
- <https://www.yomiuri.co.jp/hobby/atcars/news/20230911-OYT8T50015/>
- <https://denenplaza.co.jp/awards/>

4.地域ブランディング事例の紹介



約6ヘクタール
(東京ドーム1.5倍)の
広大な敷地！！

4.地域ブランディング事例の紹介

道の駅 強さの秘訣

①コンセプト・ターゲット設定

：村の村づくりの基本路線である「農業＋観光」の集大成事業と位置づけ、ターゲットを都内を含む遠方からの観光客に設定した。

②魅力的な商品群

：村の資源を活用した、魅力的な商品を多数取り揃えている。また、道の駅内においても商品の開発・製造が行われている。

③情報発信・連携力

：積極的なメディア出演や、東京・世田谷区との縁組協定等を活用し集客を図っている。



【のむヨーグルト】



【川場産コシヒカリ「雪ほたか」】



【「雪ほたか」を活用したおにぎり】

4.地域ブランディング事例の紹介

道の駅⇔地域内の関係

①「村民」の交流機会の創出

：村の商業・情報・ふれあいの核である“タウンサイト”の形成の場としての機能を持たせ、物販・飲食施設における購入行動のみならず、イベント等を通じて村民の交流を図っている。

②雇用機会の創出

：村内に若者が希望を持って働ける職場がほとんどなかったが、その中において100名程度の雇用の場を確保した。(平成14年度実績)
また、農産物提供者の多くは高齢者や主婦であり、高齢者や主婦が稼げる場も確保した。

③地域利潤の創出

：道の駅における農産物出荷者は350名を越え、村の農家の半数が出荷している状況になり、多くの村民が道の駅から直接的な利潤を得られる状況を創出した。(平成14年度実績)

4.地域ブランディング事例の紹介

道の駅⇔地域外の関係

①関係人口の創出

：人口3,259人の村にも関わらず、年間で約240万人の来場者を集めており、村の関係人口創出に寄与している。

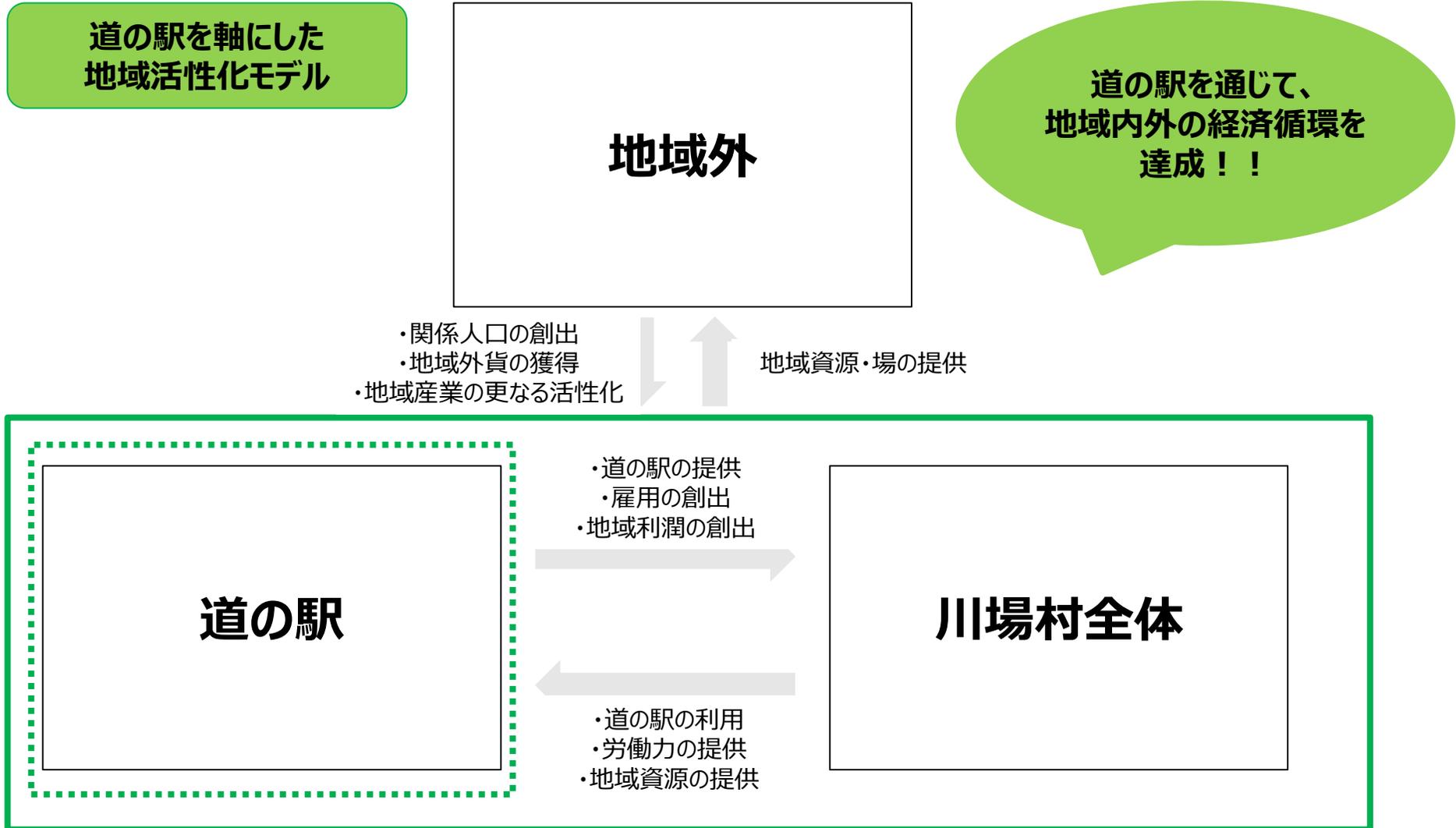
②地域外貨の獲得

：①に伴い、道の駅の直売・飲食機能等では多くの外貨が消費され、村の地域経済活性化に寄与している。

③地域産業の更なる活性化

：②に喚起され、村内の農家等においては、新しい加工品の製造や、農産物の新品種に取り組む動きもみられた。
(道の駅内においても、商品開発が行われ、新たな村の特産品化が進められている。)

4.地域ブランディング事例の紹介



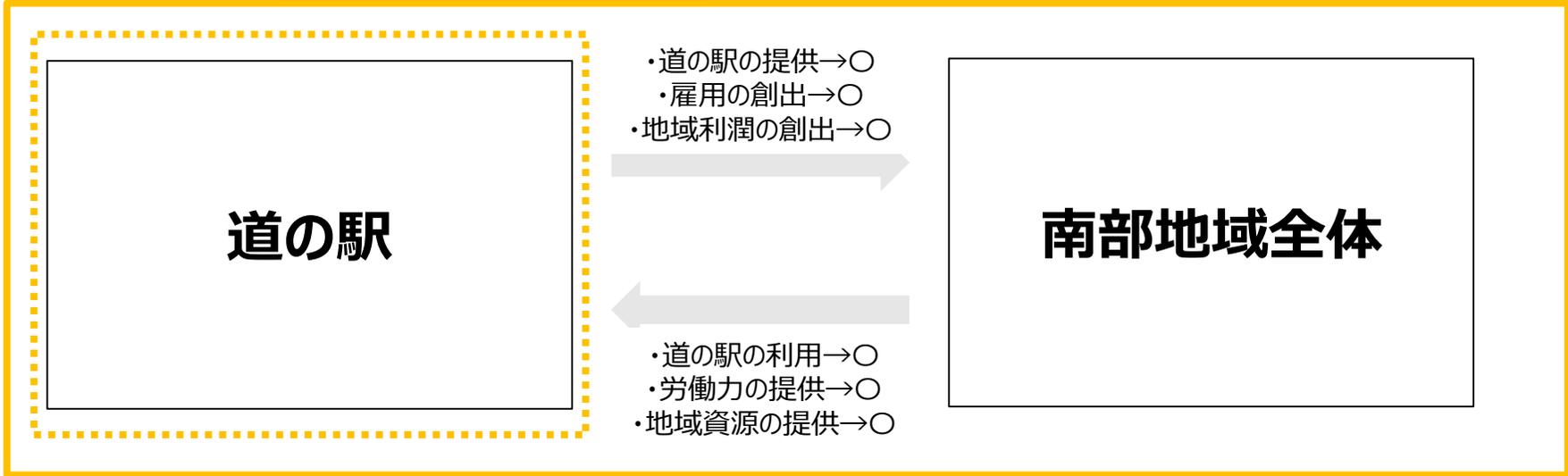
4.地域ブランディング事例の紹介

**地域活性化モデル
アリストぬまくまの現状**



**道の駅⇔南部地域内の
経済循環はできているものの
地域外との経済循環が課題！？**

- ・関係人口の創出→△
 - ・地域外貨の獲得→△
 - ・地域産業の更なる活性化→△
- ↓ ↑
- 地域資源・場の提供→△



5.参加者による意見交換

- ・皆様が持つ道の駅へのイメージ
- ・皆様が持つ道の駅への想い
- ・皆様が持つ道の駅へのビジョン(再整備を経てどのような道の駅を創っていきたいか)

ファシリテーターが調整しますので自由にご発言ください。

注意

5.参加者による意見交換

MEMO

■第2回道の駅アリストぬまくまあり方懇談会 参加者一覧

氏名	所属等	区分	備考
藤田 正之	福山市農業協同組合 代表理事専務	関係団体	
占部 勝巳	千年漁業協同組合 代表理事組合長	関係団体	
藤原 勝彦	沼隈内海商工会 会長	関係団体	
卜部 光央	福山市経済環境局経済部 農林水産振興担当部長	関係団体	
西迫 豪志	有限会社アリストぬまくま 代表取締役社長	関係団体	
田中 博志	株式会社広島銀行 東部統括本部長	金融機関	
宮 崇宏	株式会社広島銀行 千年支店支店長	金融機関	同席
近藤 大介	株式会社中国銀行 千年支店支店長	金融機関	代理
小田 嘉幸	国土交通省 中国地方整備局 福山河川国道事務所副所長（道路担当）	行政機関	欠席
池上 由美子	広島県 東部建設事務所管理課長	行政機関	
井上 真一	福山市 建設局参事	行政機関	欠席
下川 勇	福井工業大学 工学部教授	学識経験	
辻 紳一	福山市立大学 都市経営学部准教授	学識経験	
小林 仁志	福山商工会議所 専務理事	その他	欠席
上田 英夫	福山観光コンベンション協会 専務理事	その他	
加川 倫崇	広島県東部観光推進協議会 会長	その他	

【オブザーバー】

氏名	所属等
岩本 信一郎	経済環境局 文化観光振興部長
鈴木 裕	市民局 まちづくり推進部 南部地域担当部長

【事務局】

氏名	所属等
林 茂晃	経済環境局 経済部 農林水産課長
徳永 嘉則	経済環境局 経済部 農林水産課企画担当次長
杉野 純一	経済環境局 経済部 農林水産課
西田 昇	経済環境局 経済部 農林水産課

【コーディネーター】

氏名	所属等
伊藤 順	株式会社船井総合研究所 地方創生支援部
佐々木 貴大	株式会社船井総合研究所 地方創生支援部